

一段とおいしい米に

恵那・坂折棚田 JA岐阜信連が田植え

農林水産省の「日本の棚田百選」の一つ、恵那市中野方町の坂折棚田で、県信用農業協同組合連合会（JA岐阜信連）の職員ら11人が田植えを体験した。（服部潤）



地元保存会の指導を受けながら田植えをする職員ら＝恵那市中野方町、坂折棚田

JA岐阜信連は、自然環境保全の役割を果たしている中山間地域の棚田の多面的機能に着目。本年度から持続可能な開発目標（SDGs）の取り組みの一環として、棚田オーナー制度に初めて参画した。

職員らが、NPO法人恵那市坂折棚田保存会の3人の指導を受け、苗を丁寧に手植えた。毛利将成さん(24)は初めての体験だったが、うまく植えられた。昔ながらの手植えは楽しい」と話した。300平方メートルの田んぼで約2時間で作業を終えた。今後は9月に稲刈り、10月に収穫祭が開かれる。

また、棚田オーナーの都市住民らも田植えに汗を流した。名古屋から家族らと訪れた所維織さん(51)は、米を長男武蔵君(10)の離乳食に使うため参加してから続け、オーナー歴11年目。所さんは自分たちで作った米はおいしい」と話した。

早乙女 丁寧に手植え

飛鳥時代の朝廷に米を献納していたという史実にちなんだ「恵那の里 次米みのりまつり」の御田植え祭が、恵那市長島町の水田で行われた。

みのりまつりは、史実を再現するイベントで、地元住民でつくる実行委員会が毎年開いている。

岩村城女太鼓の演奏と、趣味で年に数回コンサートやミュージカルを開いている市職員の市川太一さん(48)の豊作を願う歌声が響く中、早乙女姿の地元女性や長島小学校子ども会の1～6年生らが、マスク姿で苗を手にも水を張った田んぼに横一列になり手植えた。恵那農業高校1年永谷真波さん

「みのりまつり」献納米



丁寧に田植えをする早乙女姿の女性ら＝恵那市長島町

(15)は「小学5年生の時から参加している。いろんな年代の人と一緒に田植えができて楽しい」と話した。

みのりまつりでは9月に収穫の「抜き穂祭」を行い、10月に薬師

寺（奈良市）と天武天皇陵（奈良県明日香村）へ米を献納する。（服部潤）